



第 26 回

新たな地域連携軸

県境を越えた地域間交流の再興

三遠南信道



中平 浩文

NAKADAIRA Hirofumi

木下建設株式会社常任顧問

(元) 国土交通省中部地方整備局

飯田国道事務所長

はじめに

三遠南信地域は、古くから一体的な文化圏を形成し発展してきたが、時代の変化に伴い地域開発の軸線が縦から横へと代わり、また、県境性の問題も相まって地域間相互の交流が途絶えがちとなり、内陸部の開発の遅れ、過疎化の進展など社会問題の派生をみている。これらの課題に対応するため、昭和40年代から三遠南信地域を縦に結ぶ高速道路構想が動き出し、現在、三遠南信自動車道としてその整備が進められている。

この三遠南信自動車道は、県境を越えた地域間交流の再興を支援する新たな地域連携軸をなすもので、整備の促進と並行して新たな地域間交流も着々と動き出している。

本稿では、三遠南信自動車道のこれまでの取り組みや新たな地域間交流を紹介することで、今後の更なる交流再興への後押しとするものである。

1. 三遠南信地域と三遠南信自動車道

三遠南信地域とは、愛知、静岡、長野の3県の県境地域(図-1)のことであり、愛知県東部の東三河地域の「三」、静岡県西部の遠州地域の「遠」、長野県南部の南信州地域の「南信」をあわせ、三遠南信地域と呼ばれている。三遠南信地域は、歴史的な繋がりも強く、天竜川や豊川を使った水運や、太平洋沿岸部と内陸部を結ぶ「塩の道」と呼ばれる街道を通じ、陸運での交流も盛んであった。しかし、モータリゼーション後に周辺地域と比べて自動車交通の発展に取り残されてしまった三遠南信地域は、現在過疎化の進行による切実な課題を抱えており、地域の繋がりを取り戻すための県境を越えた縦軸ネットワークの形成による地域連携が強く望まれている。

三遠南信マップ



図-1 三遠南信地域図

三遠南信自動車道(一般国道474号)は、長野県飯田市山本から静岡県浜松市北区引佐町に至る延長100kmの高規格幹線道路であり、中央自動車道と新東名高速道路を連絡し、地域間の連携強化を図り、三遠南信地域の秩序ある開発・発展に大きく寄与する重要な路線で、飯橋道路、小川路峠道路、青崩峠道路、水窪佐久間道路、佐久間道路・三遠道路などから成る一般国道の自動車専用道路である(図-2)。



図-2 三遠南信自動車道路線図

2. 計画経緯

①「三遠南信高速道路建設構想（愛知・静岡・長野3県知事会議）」

昭和43年に磐田郡佐久間町で開かれた3県知事会議において、3県の協力体制下による地域の開発について話し合わせ、東名高速道路と中央自動車道路を結ぶ三遠南信高速道路の建設、静岡県と長野県を結ぶ国道の未開通部分は兵越峠^{ひょうごうげ}を通すことなどが合意された。

②三遠南信トライアングル構想

三遠南信トライアングル構想は昭和60年3月に中部経済連合会が発表したものであり、「21世紀の中部ビジョン」のフォローアップとして策定された。東三河地域、北遠地域、南信地域の3地域が、豊かな自然環境を背景として、それぞれの地域の政策課題に対応する産業の振興と適正配置、生活環境整備などを積極的に推進し、地方の時代のモデルとなる優れた都市圏を形成し、3地域が三遠南信トライアングルエリアとして、県境を越えた一体的行動と機能の相互連携及び、補完を進め国土開発の新しい軸線となつて、中部圏発展の新たな核となる広域200万都市の実現を図ろうという計画であり、三遠南信自動車道は南北交流の軸に位置付けられている(図-3)。なお、この当時は、飯田市を頂点とした逆Y字型路線の構想となっていた。

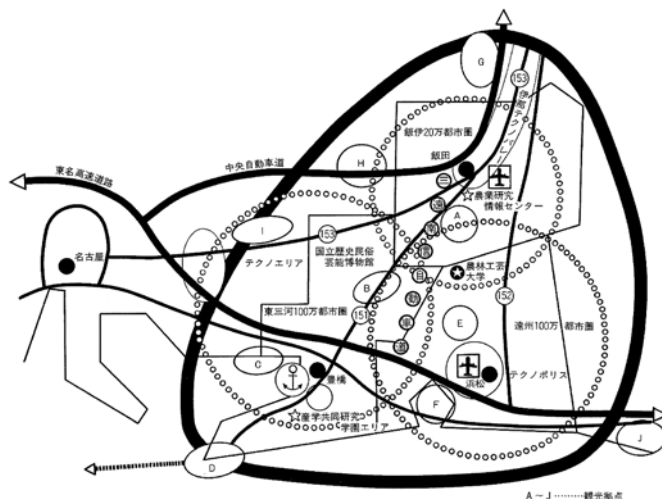


図-3 三遠南信地域トライアングル 構想図

③第四次全国総合開発計画

昭和62年6月に閣議決定された第四次全国総合開発計画において、三遠南信自動車道は国土を縦貫し横断する路線の連携を図り、あるいは国土の主軸から離れた地域の一体化を図る路線（概ね現計画と同じ）として、全国的な自動車交通網を構成する高規格幹線道路網（1万4千キロメートル）の一部に位置付けられた。

3. 事業経緯

事業は通行不能区間の解消を目的に、昭和58年より青崩峠道路、昭和59年より小川路峠道路でそれぞれ事業に着手しており、これらを含む形で昭和62年に高規格幹線道路の指定を受けた。その後、平成5年に一般国道474号の路線指定を受け、平成6年3月には事業の進んでいた小川路峠道路^{やはす}（矢筈トンネル関連区間）が供用開始された。

平成13年4月には今後の整備について新たな方針が示され、これまでの全線自動車専用道路として完成形を目指す整備方針から、地域の実情を踏まえ、三遠南信自動車道の有効な使い方、整備の仕方を検討し、地域と連携した計画に見直した。計画見直しメニューとしては、①道路線形の見直し、②地域振興インターチェンジの設置、③インターチェンジの簡素化、④国と地方の役割分担、⑤優先順位の明確化であり、特に④国と地方の役割分担では、三遠南信自動車道の整備（国）と本自動車道に並行する一般道（国道152号）の未改良区間などの整備（県）の役割分担を行うことにより、整備費用の削減、整備期間の短縮を可能とするものであった(図-4)。

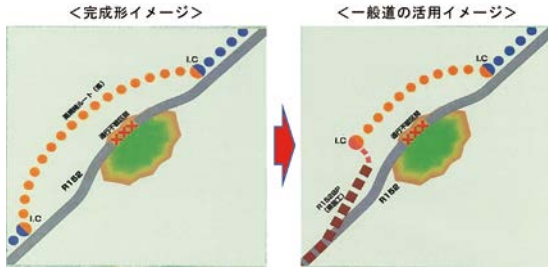


図-4 国と地方の役割分担（現況道路の活用）

計画し最も困難であった青崩峠道路については、日本最大の断層である中央構造線の影響を最小限とするため、有識者による地質検討委員会を設置し、より安全で確実なルート検討を重ねるとともに、地元住民代表を交えた青崩峠道路懇談会による住民アンケートなどのPIも実施し、中央構造線の西側をトンネルで通過する現在の計画とした。

現在までに、三遠南信自動車道約100kmのうち現道改良を含め約6割（約59km）の区間が供用済みとなっている（表-1）。

表-1 開通済み区間延長

全体延長 約100km 【開通済区間:59.4km（約6割）】		令和6年9月末時点		
路線	箇所	延長	完成日	備考
飯橋道路	飯田山本IC～天龍峡IC	7.2km	H20.4.13	
	天龍峡IC～龍江IC	4.0km	R1.11.17	
	龍江IC～飯田上久堅・喬木富田IC	3.4km	H30.3.10	
小川路峠道路	矢筈トンネル	4.8km	H6.3.29	
国道152号 (現道改良区間) (長野県)	向井万場拡幅	6.3km	H23.7.3	
	上町～小道木	6.6km	H15.3.13	
	小道木バイパス	1.7km	H27.10.17	
	和田バイパス	4.1km	H28.12.17	
	小嵐バイパス	0.5km	H27.3.23	事業区間2.4kmのうち一部開通
佐久間道路・三遠道路	佐久間河合IC～東栄IC	6.9km	H31.3.2	
	鳳来峡IC～浜松いなさ北IC	13.4km	H24.3.4	
	浜松いなさ北IC～浜松いなさJCT	0.5km	H24.4.14	
		59.4km		

4. 現在の整備状況

飯橋道路の未供用区間（3工区）については、全体11トンネル、9橋梁のうち1トンネル、2橋梁が完成済みである。非常に山が深く工事用進入路が限られる状況ではあるが、限られた施工ヤードの中順次工事を進めている状況である（図-5）。

青崩峠道路については、事業の大部分である青崩峠トンネル（仮称）(4,998m)が、約4年にわたる掘削工事を経て令和5年5月に貫通した（写真-1）。トンネル掘削は、近接する中央構造線の影響を受けた脆弱な岩盤や最大土被り610mによる大きな土圧に対し高強度材料や二重支保工の採用などにより、困難を克服した工事であった。トンネル本体内工完成後は、受変電設備や機械設備、舗装工等を順次施工していくこととなる。



写真-1 青崩峠トンネル（仮称）貫通

水窪佐久間道路は平成31年度に事業化し、工事着手に向け用地買収、設計等を実施している。

三遠道路は未供用区間で残る東栄インターチェンジから鳳来峡インターチェンジ間（延長7.1km）について、

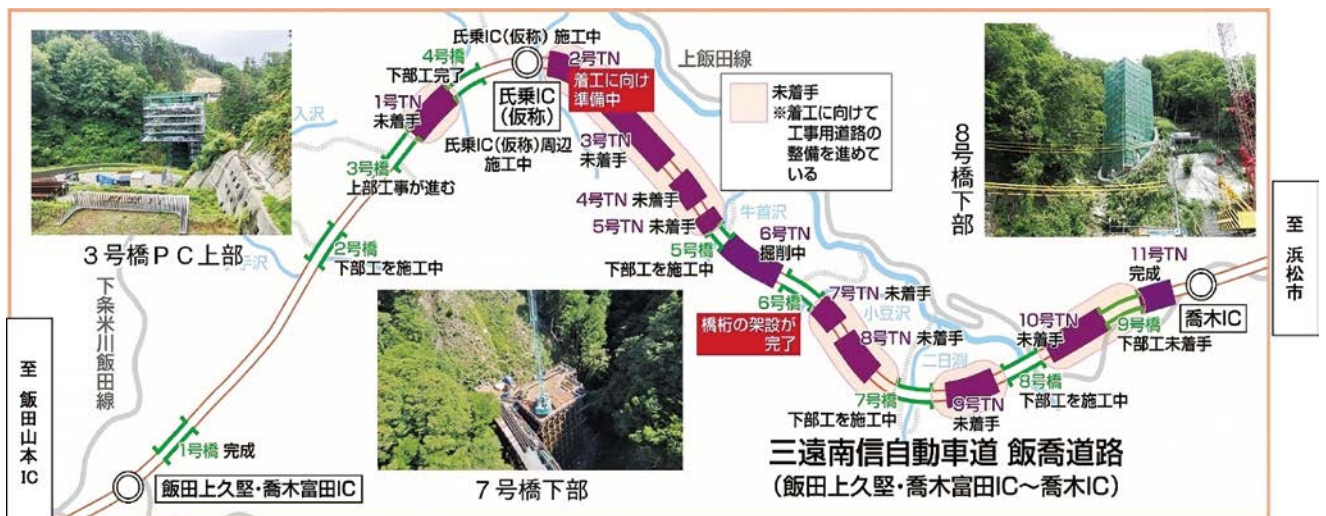


図-5 飯橋道路3工区の施工状況

令和7年度の開通に向けて工事を実施しているところである(図-6)。



図-6 三遠道路8号橋施工状況

5. 新たな交流

三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)は東三河地域、遠州地域及び南信州地域の県境を越えた地域連携を推進し一体的な圏域の発展を目指すことを目的とした組織であり、関連する市町村長及び商工会で構成されている。三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクトとして交流・連携に向け学習会、見学会の開催など様々な取り組み・情報発信を行っている。令和7年1月には第32回三遠南信サミットが開催されるなど、三遠南信自動車道開通への機運を高める活動を行っている。

また、民間レベルでも事業進捗とともに三遠南信自動車道を軸とした新たな地域間交流が始まっている。

飯田市、浜松市、豊橋市の中学生を対象とした三遠南信交流事業「三遠南信中学生交流会」や南信、三河、遠州の3地域の合唱団が交流する「三遠南信文化交流合唱の集い」、飯田市南信濃と浜松市水窪地域の住民が交流を深める「^{やまたいこく}遠山郷・奥山郷“山大国”連携事業」など、継続した交流が期待できる取り組みも多い。

他にも三遠南信地域を舞台としたアニメや漫画も多数あることから(図-7)、浜松市の青年会議所では2024年度三遠南信交流会として、豊橋青年会議所、飯田青年会議所と合同で浜松のアニメの聖地を巡るツアーを企画するなど、三遠南信道沿線の交流を深めるツールの一つとして活用されている(写真-2)。

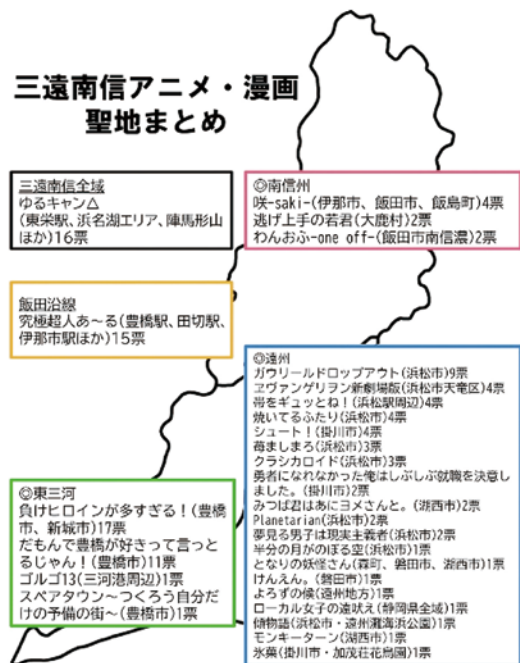


図-7 三遠南信アニメ・漫画聖地まとめ



写真-2 2024年度三遠南信交流会の様子

おわりに

三遠南信自動車道の整備により、古くからの地域間の繋がりを再興し、産業・観光交流をはじめとする豊かな取り組みなどが促進されることを期待とともに祈念している。

最後に、本稿の作成にあたって、中部地方整備局飯田国道事務所をはじめとする関係者の皆様に資料の提供や確認を頂いたことに深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 HP: 三遠南信地域連携ビジョン推進会議事務局
- 2) 三遠南信トライアングル構想: 中部経済連合会
- 3) 第四次全国総合開発計画: 国土庁, 1987.6
- 4) 三遠南信 Biz Vol.66: 南信州新聞社, 2024.9
- 5) 三遠南信地域連携ビジョン: 三遠南信地域連携ビジョン推進会議, 2008.5
- 6) 浜松市史 五: 2016.3

その他の記事は「日本みち研究所HP」で公開しています

国道をゆく エリア別一覧

検索

rirs.or.jp/kokudo/